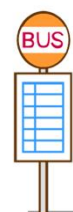




バスの妖精「ハッピー」

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project

～2026小学生バス無料デー実施計画～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県交通政策課)

背景と目的、目指す姿

背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な**乗合バス利用者の減少**
- ・**バストライバーの高齢化**による運転手不足への危機感



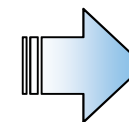
目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、**社会全体で「乗って育む」意識を啓発**
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに寄せたいと思う保護者の増加



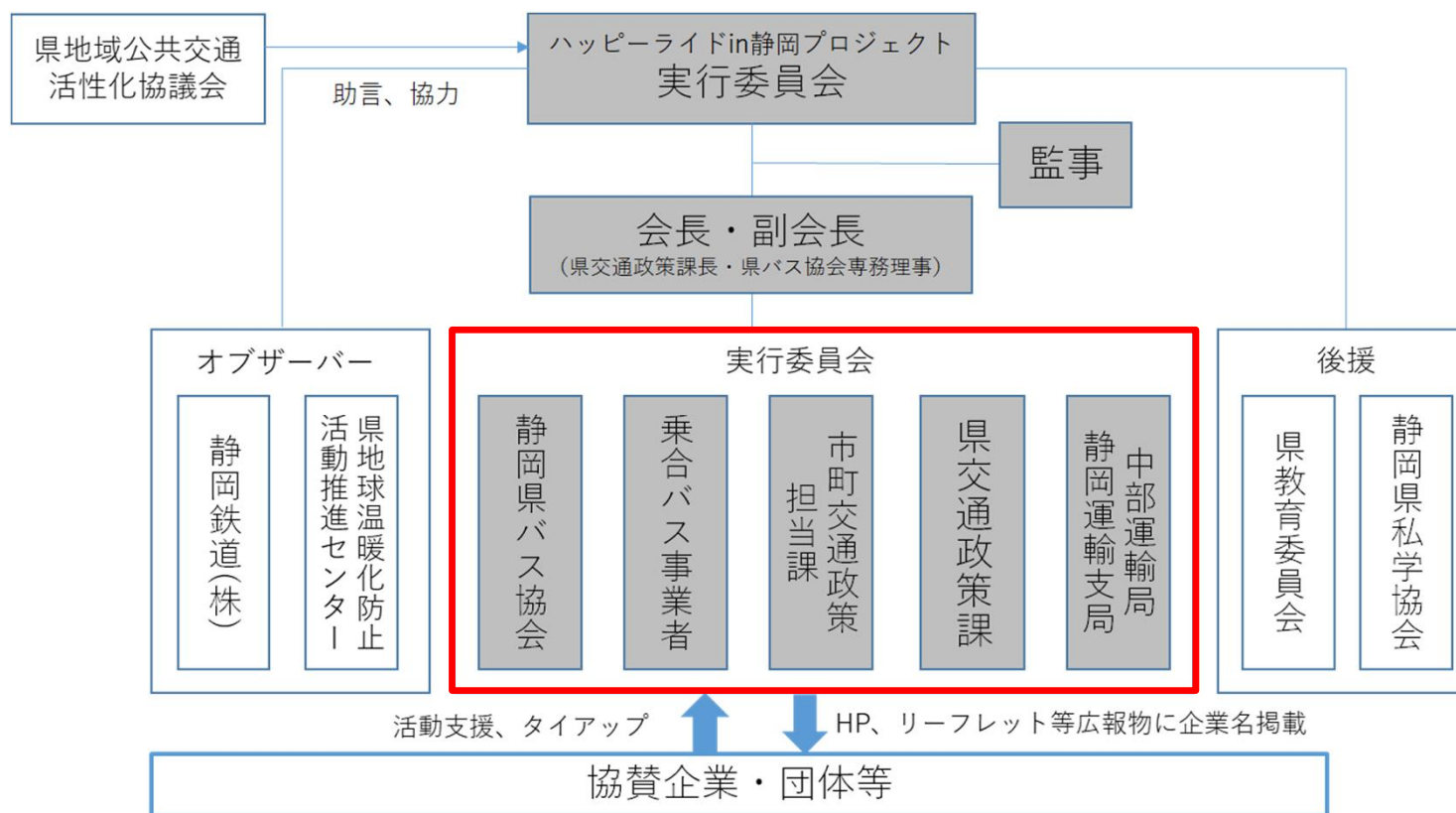
**バス利用頻度
の増加**



実施体制

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施**
(小学生を対象とした全県規模の実施は他になし)



これまでの取組

項目	R 6	R 7
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 約173,000人 （国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童）	静岡県内の学校に通う小学生 約168,000人 （同左）
実施日	令和6年12月7日（土） ～8日（日）2日間	令和7年12月13日（土） ～14日（日）2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線、空港アクセス線等を除く）	
タイアップイベント	・無料デーと合わせたイベント実施（31施設） ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待（抽選）	・無料デーと合わせたイベント実施（44施設） ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待（抽選）
その他の取組	—	・特設サイト開設、バス動画制作 ・後援名義取得（県教育委員会、静岡県私学協会）
協賛企業・団体	—	・協賛体制の確立 （静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部）

成果と課題（R7実施結果より）

成果

項目	内容
利用者数	・子どもの利用者は 前週から増加 （約2.5倍）
利用促進効果	・バスに乗った小学生のうち、 普段バスに乗らない（ほとんど乗らない） と回答した小学生の割合は 64%
意識、行動の変化	・昨年度のバス無料デーを知っていた小学生のうち、 バスに乗ることが「増えた」と回答した人数は、「減った」と回答した人数の約2倍 （12%） ・昨年度のバス無料デーと比べ、 バスが好きになったと回答した小学生は23% （低学年は約40%） ・バスに乗った小学生のうち、バス運転手の仕事を「もっと知りたい」という 気持ちが強まった小学生は44% （低学年は59%） ・バス無料デーにバスに乗った小学生の 76%がとても楽しかったと回答 （低学年では80%） ・バス無料デーにバスに乗った 保護者等の39%が「無料デーがなければ出かけていなかった」と回答 ・バス乗った保護者等の全員が、 バス無料デーが「自分や家族が公共交通に乗るきっかけのひとつになった」と回答 ・バスに乗らなかった 保護者等の94.2%が、今後バス無料デーがあったら子どもをバスに乗せたいと回答 ・ 保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は、今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答 資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより



モビリティ・マネジメントの取組としては一定の効果が見られた。意識や行動の変容は、繰り返し行うことで徐々に浸透していくものであることから、継続して取り組む必要がある

成果と課題（R7実施結果より）

課題

項目		内容
周知面		・小学生の42%が今年度のバス無料デーを知らなかったと回答（昨年度と同水準） ・情報入手経路は「学校の先生から聞いた」と「チラシで見た」が大半（保護者等も同様の傾向） ・リーフレットの持参を忘れてくる人、無料デーを知らない人がいた ・まだ児童が自主的に参加するまでには取組が定着していないものと考えられるため、学校やその他団体（小学校関連）による協力が重要
運用面	実施日	・バスに乗らなかった理由では、予定が合わなかったことが主な理由（「他に用事があったから」55%、「子どもは乗りたがったが自分に用事があったから」（17%））
	対象者	・未就学児の対応が事業者で異なる（利用者にとって分かりづらく、未就学児を連れたお出かけをためらうケースも） ・県外小学生への対応（区別がつきにくい、県内外に関係なく全ての小学生を対象にしてほしい等）
	その他	・乗務員のアナウンスの内容等を決めておく ・対象外の路線の周知（リーフレットへの記載やバス停への掲出など） ・整理券を取るように周知徹底してほしい ・転倒事故の危険性と防止のための説明をパンフレットに載せていただきたい

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより

2026実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生※及び未就学児 ※国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童
実施日	<u>令和8年12月12日（土）～13日（日）、19日（土）～20（日）4日間</u>
利用方法	リーフレット（紙またはスマホ画像）をバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県交通政策課（組織改正によりR8.4～課名変更）
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部 ※協賛企業は随時募集
後援	県教育委員会、静岡県私学協会

2026実施計画

◎ 主な変更点と取組のポイント

		内容	考え方
実施日		12/12 (土) ~ 12/13 (日) 12/19 (土) ~ 12/20 (日) <u>4日間</u>	実施日を増やすことにより、新たな利用者増につなげる
対象者		小学生以下 <u>(幼児を含む)</u> は <u>全員無料</u>	家族・兄弟姉妹等でのお出かけを促進する
利用方法		リーフレットをバス運転士に提示 (紙のほか <u>スマホ画面による提示</u> でも可)	スマホ画像による提示を試行的に実施
周知/ 広報	<u>タイアップ施設</u>	無料デーを早めに告知 (5月~)	早期告知により、タイアップ施設によるイベント企画や広報を可能にする
	<u>学校 (教職員等)</u>	- 学校、教職員向け説明ペーパーの作成 - バス動画の活用	協力学校を増やす
	<u>学外 (小学校関連)</u>	(例) - スポーツ団体、学習塾、保育園、幼稚園等 - 自治会、PTAや保護者向けSNS、スーパー等	学校以外の団体に賛同・協力者を増やす

(参考)今後の無料デー定着に向けたアイデア

◎ 今後に向けたアイデア（これまでに取組があったものを含む）

区分	内容	考え方
期間中にバスを使いこなすアイデア	- 無料デーと合わせた、スタンプラリー等の企画 - 拠点ターミナル等から、バスを乗り継いで出かけるモデルコースを例示	アンケートでは、無料なのに2回しか乗らない回答者が多かった
大人の同行を促すアイデア	無料デーと合わせた、バス車内お絵描き展	アンケート結果から、同行した保護者等に対するMMの意義も大きい
無料デーの印象を実施後も継続させるアイデア	無料デーのバス乗車体験談、バス写真コンクール、特設サイトで紹介等	アンケートでは、去年の無料デーのことを覚えていない児童が少なくない
リーフレット	リーフレットの一部に、カードサイズの「PASS（参加賞学校の証）」画像を入れ、切り取って定期入れやネックストラップ等に入れて持ち運ぶできるようにする	乗降時間の短縮や乗務員の負担軽減

資料：調査会社報告「まとめと今後に向けたご助言・アイデア等」より

実施スケジュール

月日	内容
4月23日	<u>○実行委員会（第9回）の開催、実施計画の決定</u>
4月24日	校長会小学校部会①（各学校長に小学生バス無料デーの協力を依頼）
5月	市町教育委員会、私立学校に通知①、プレスリリース①、タイアップイベントの募集
5月下旬～	市町地域交通会議等での説明（県）、運賃協議会での承認（市町）
7月	<u>○実行委員会（第10回※書面協議）の開催、収支予算の承認、実施路線調査</u>
7～8月	広報素材（チラシ、ポスター）、特設サイトの作成（10月公開予定）
9月	校長会小学校部会②、市町教育委員会、私立学校に通知② タイアップイベントの更新・追加募集、無料デーフリーパスの作成
10月	<u>○実行委員会（第11回）の開催、特設サイト公開</u>
11月	各学校経由で小学生に無料デーフリーパスを発送、 <u>プレスリリース②（一斉広報）</u>
12月	<u>プレスリリース③（取材依頼）</u> 、小学生バス無料デーの実施（12～13、19～20）
～3月	利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討 <u>○実行委員会（第12回）の開催、成果報告等、プレスリリース④（結果公表）</u>

県活性化協議会
報告（8月）

県活性化協議会
報告（3月）

※我が国におけるモビリティマネジメント施策を効果的・広範に推進させることを目指して、行政、大学、コンサルタント、市民団体等の関係者が一堂に会する会議。今年度は9月2日（金）から3日（土）に湯沢カルチャーセンターで開催される。

1. 発表タイトル

バス無料デーで行動変容

～ハッピーライド in 静岡、全国初の全県小学生無料～

2. 発表概要

a) 背景と目的

本県の地域公共交通計画では、「公共交通の利活用促進」を計画目標の一つとしており、バスの利用を体験する機会の提供と、それを通じた意識の醸成を目的として、県内すべての小学生等を対象に、県全域における「バス無料デー」を開催した。なお2025年は、前年に続き2回目の開催となる。

b) プロジェクトの内容

県バス協会及びバス事業者、国・県・市町で構成する「実行委員会」を組織し、県内の企業・団体の協力・協賛、県教育委員会・私学協会の後援を得ながら取り組んでいる。特別支援学校や外国人学校を含む全小学生を対象とした、県全域にわたる路線バス、コミュニティバスの無料デーは全国初と認識している。また、沿線施設のイベントや来場特典等に加え、今回はJR東海の企画とのタイアップも行った。

c) 効果

バス事業者の報告によれば、無料デー当日の子どものバス利用客数は、前週と比較して増加しており、子ども同士で誘いあつての利用が多かった可能性がある。アンケートによれば、無料デーにバスに乗った小学生のうち、それまで利用頻度が低かった児童が多く、当イベントが「バスの利用を体験する機会」となっており、保護者からの賛同も得られている。また、回答者は少ないものの前年から無料デーを知っていた小学生や保護者については、その後のバスに乗る頻度が増えた、バスへの関心が高まったという旨の回答が多かった。

d) 結論

バス無料デー（体験する機会）と、そのPR活動やアンケート（考える機会）の取り組みは、小学生や保護者のバスに対する意識の醸成と、その後の行動変容に一定の効果があると考えられる。一方で、無料デーを知らなかった、バスに乗らなかったという小学生が、まだ多く残っている状況であり、意識や行動スタイルが徐々に広まり定着するものであることを考えれば、取り組みを継続し毎年繰り返し行う意義があるものと考えている。今後は、より多くの学校や団体の協力を得られる方策を検討するとともに、県民のバスに対する更なる意識醸成を図るため、より一層、県民に響く広報・周知を実施していく。

3. 発表者・連名者の氏名・所属／勤務先

後藤 義卓、山崎 惇子：静岡県 交通基盤部 政策管理局 交通政策課

松本 幸正：名城大学 理工学部 教授

宇都宮 浄人：関西大学経済学部 教授

鈴木 文彦：交通ジャーナリスト

三上 和宏、加藤 慶太：八千代エンジニアリング株式会社